

# 令和6年度学校自己評価システムシート (県立浦和東高等学校)

目指す学校像	確かな人間力と教養を育み、生徒一人ひとりが自己の探究と実現ができる学校
--------	-------------------------------------

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	1 学力の向上をめざし、授業改善と主体的な学習習慣の確立を進める。 2 自律心と規範意識を高める生徒指導と学習及び部活動の環境整備を進める。 3 自己探究により進路意識を高め、進路希望の実現率を高める指導を進める。 4 保護者・地域連携と情報発信を充実させ、開かれた学校づくりを推進する。 5 ICT活用指導力の向上とICT環境の整備、学校教育活動のデジタル化を進める。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	名
学校関係者	名
生徒	名
事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価								学校関係者評価				
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )			実施日	令和	年	月	日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等				
1	①新教育課程を踏まえた学力の向上をめざし、積極的な授業公開による教員同士の研究等に取り組み、ICT機器を取り入れるなどの授業改善の必要がある。 ②生徒の興味・関心を引き出す授業展開や課題設定をすることで、生徒の主体的な学習習慣を確立する必要がある。	①・生徒の興味・関心・意欲を引き出す授業を実践している。 ・生徒の学力が向上している。 ②・生徒の興味・関心を引き出している。 ・生徒の主体的な学習習慣が確立している。	①・教科横断的に、年次研修対象者、未来学び研究者をはじめ多くの教員による積極的な授業公開の実施。 ・校外で開催される各種研修会への参加及び、そこの学びを還元した授業実践と研修受講報告会の実施。 ・ICT機器を活用した授業及びオンライン授業についての授業見学や研修、意見交換の実施。 ②・各教科における課題等の提示を検討し、家庭学習の時間を確保する。 ・学習室の積極的な活用を促進する。 ・授業評価アンケートの実施。	①・授業公開期間を効率的に実施したか。 ・授業評価アンケートによる、「興味・関心・意欲を引き出す授業を実践している(教員)」、「意欲的に学習に取り組んでいる(生徒)」との両回答が90%以上を維持。 ②・「興味・関心・意欲を引き出す授業である(生徒)」との回答が80%を超える。 ・「毎日1時間以上の学習の習慣がある(生徒)」との回答が20%を超える。								
2	以下の観点による自律心と規範意識を高める生徒指導を推進する必要がある。 ・自転車乗車中の交通事故の増加に伴う、ヘルメット着用率の向上 ・交通ルールの遵守やバスの乗車マナー等の規範意識の確立 ・TPOを意識した言動や行動の確立 ・部活動によるリーダーシップの育成	交通ルールの周知徹底やバス乗車のマナー等について、また、部活動等とおおのりリーダーシップの育成と基本的な生活習慣の確立に向けての取り組み。	・様々な場面での交通安全指導及び、定期的な立哨指導の実施。 ・バス乗車指導の実施及び、バス会社や他校との調整。 ・日常の様々な場面において教職員からの積極的な投げかけを増やし、生徒が主体的に、TPOを意識した言動や行動について考え、行動する機会を増やす。 ・目標達成に向けての生徒会との連携を強化する。 ・部活動への積極的な参加を促す。	・規律を守っている生徒97%、交通ルールを守っている生徒98%を超えたか。 ・交通事故件数、自転車及びバス乗車マナーに対する苦情の件数 ・自転車ヘルメット着用率 ・遅刻者数や時間ギリギリに登校する生徒数 ・生徒会との連携事業 ・部活動加入率								
3	①多岐にわたる生徒の進路を実現させるとともに、多様化する入試制度に向けて、計画的・系統的な進路指導を実践している。また、上位層でより高いレベルをめざす生徒を増やす必要がある。 ②観点別評価を重視した入試制度に対応できるような資質・能力の養成に努めている。また、資格・検定試験の合格率の向上をめざしている。	①個々の進路実現を踏まえ、多面的に指導にあたる。 ②・「学力の3要素」に基づく進路指導を行う。 ・チャレンジ検定に向けた指導を充実させる。	①・スタディサポートや実力診断テスト、各種模擬試験等を実施し、生徒の進路意識を高める。 ・個々の進路希望に応じて、進路補講や面接・小論文指導を学校全体として行う。 ②・「総合的な探究の時間(SD:Self Discovery)」等を活用し、生徒が主体的に自分の将来について考え、自らの意思を発信できる能力を養う。 ・分野別説明会や進路レポート等を活用し、進路実現に必要な情報を収集し、課題解決に向けて努力する姿勢を養う。 ・チャレンジ検定等を活用し、資格・検定試験の受験を推進する。	①・進路行事、進路結果満足度は90%を超えたか。 ・スタディサポートや実力診断テストを進路指導に上手く活かしたか。 ・GMARCH以上の大学合格者を輩出、4年制大学進学者6割程度、民間就職希望者の内定率100%を実現できたか。 ②・探究活動やガイダンス等を通して、主体的に考え、自ら発信する力を伸ばすことができたか。 ・より多くの生徒が資格・検定試験に挑戦し進路に活かすことができたか。								
4	本校での取り組みに関する情報を積極的に発信していく必要がある。	・学校説明会等を適切な方法、時期に実施する。 ・学校に寄せられる情報を適切な方法、時期に提供している。	・安心・安全に配慮した年4回の学校説明会・部活動体験等の開催。 ・校外で開催される高校説明会等への参加。 ・進路や奨学金等に関する積極的な情報提供。 ・HP等による、学校行事等のリアルタイム更新による情報発信。 ・地域活動への積極的な参加。 ・授業評価アンケートの実施。	・学校説明会などを通して本校への理解が深まり、進学意欲が高まったか。 ・学校説明会の工夫・改善が図られたか。 ・志願者数が増加できたか。 ・積極的な情報提供ができたか。 ・保護者による授業評価アンケートの結果から情報が家庭に確実に届いているか。								
5	ICTを活用した授業等の実施など、教育活動のデジタル化を進めている。	ICTを活用した授業を実施し、授業や課題等の配信をデジタル化するなど工夫する。	・Google Classroomや、昨年度から導入した学習支援アプリ「MetaMoji」を活用する。 ・ICTを活用した授業や課題配信等、教育活動の工夫に取り組む。 ・自動採点システムの活用など、校務のデジタル化を推進する。	・Google ClassroomやMetaMojiのクラスを多くの単位で作ることができたか。 ・ICT機器を活用して授業や課題配信を実践したか。 ・授業等でのICT活用は増加したか。								